

幼童話

へうたんラヂオ

——本會懸賞募集入選作——

啓 子

清兵衛さんはおじいさんです。

若い時から、それは働き者で、正直で、やさしい、いゝおじいさんです。

年をこつても、お天氣のよい日はかならず山へ行つたり、畠へ行つたり、一生懸命働きます。

ですから、おじいさんの畠では、いつも、お芋が、おいしさうにふさり、お大根が真白なお顔を、土からのぞかせてゐました。

雨の降る日は、おじいさんはお家で、大好きなへうたんをみがくのでした。

せいべえじいさんは、こてもへうたんが好きでした。お庭のすみに、毎年種子を播いて育てたへうたんが、今では戸棚の中に、いつばいになつてゐます。

大きいへうたん―

小さいへうたん―

長ほそいの―

じつくりきみぢかいの―

これもく面白いい、さ、おじいさんは毎日眺めては喜んでゐました。

* * *

雨が降つてゐる。

おじいさんのお家に―お庭に―

そして、畠の干蒔の葉の上に―

おじいさんは、お家の中であぐらをかいて、「へうたん」をみがいてゐる。この間、おばあさんからもらつたお空の様な色の絹の布で、さても「へうたん」が光つて來たぞ、さ喜びながら。

おじいさんのお顔が映る程、光つて來た「へうたん」。

おじいさんは、高く上げたり、むかふへ離して見たり、近づけて見たり。

「きれー、みんな竝べて見様、きれが一等素的かな」

小さいへうたんー

大きいへうたんー

ほそ長いのー

じつくりきみじかいのー

ぶらんく天井から、たくさんの「へうたん」が下つて、下でおじいさんはニコくミ眺めてゐる。

ボーッミお部屋の一方が明るくなつて、おじいさんの座つてゐるあちらの窓から、あ！何か跳び込んで来る様なー

おじいさんは、びつくりして見ました。

小さい小さい、小人^{コビト}が、みんな金色の帽子をかぶり、金色の靴をはいて、はいつて来るーは

いつて来る―何ノミなく、何十人ミなく、

お窓の處から、ピョン／＼／＼ツーツーミ、はねて、跳んで、みんなきこへ行くのかと思ふミ、おじいさんの下げた「へうたん」の中へはいつて行つて、あたりは眞暗マツクラになりました。

氣がついて見るミいつかすつかり日が暮れて、臺所で、何かお夕飯の支度をカタコト云はせて居たおばあさんは、何處へ行つたのかひつそりミしてゐます。

ぼんやりしてゐるおじいさんの耳へ、それは／＼／＼きれいな音樂が聞えて來ました。生れてからまだ一度だつてこんなきれいな音は聞いたことがない位、ヴァイオリンや、ピアノや、もつ／＼／＼素的な音のオーケストラ。その音は「へうたん」の中からきこえて來る様です。

びつくりして聞いてゐるおじいさんの、今度はお口の中が、すー／＼甘くなつて、おいしい／＼果物を食べた時の様な、チョコレートやキャラメルをなめた時の様な氣持になりました。

おじいさんは、しばらくうつ／＼ミしてゐましたが、きれ／＼おばあさんにも聞かせなくては、ミ立おりました。

それから毎日、せいべえさんは、鳥から歸つて来るに、「へうたん」の下つてゐる部屋で、そのきれいな音楽を聞くのが、何よりうれしいことでした。毎日、色々變つた唱歌やオーケストラが聞えます。森でさへする小鳥の聲も聞えれば、時には、お月様から兎のお餅をつく音まで聞えて來たりします。

近所に住んでゐる、なまけ者の重兵衛さんが、真先にこれを聞きつけて、やつて來たのです。けれど、さうしたことが重兵衛さんにはちつとも聞こえません。勿論、お口の中が甘くも何きもありません。

いゝ加減なことを云ふ、ミブン／＼怒つて歸つてしまひました。

間も無くこの出來だが、村中にきこえて大評判です。

清兵衛さん「この「へうたん」ラヂオ」

町の時計屋で大きくラヂオよりもつゝ素的だ、

お口の中まで、おいしくなつて、

アンテナもないし、スピーカーもないのにお月様からの放送迄きこえるラヂオ。

村の人達は、みんな一生懸命仕事を済ますぞ。

「今晚は、「へうたんラヂオ」を聞きに來ました」。こやつて來ます。

清兵衛さんは、あんまり面白くなりましたので、畠へ行くのがいやになりました。それより一日家に居て聞いてゐやう。

好いお天氣なのに、清兵衛さんは、お家の中で横になつてゐます。

さあ今日は何が聞えて來るかな。

待つてゐても、待つてゐても、ちつとも聞こえて來ません。そつこ、下げてある「へうたん」にさはつて見ても、何の變りもありません。

晩になるに、いつもの様に村の人達がやつて來ました。「今日はきこえない」、そうきくま皆は、がっかりして、つまらなささうに歸つて行きました。

「あゝ、ほごりがたかつたからかな」次の日せいべえじいさんは、一日かゝつて、へうたんの

ほこりを落しましたがやつぱり聞えません。

又、がっかりして歸つて行く人達、清兵衛さんは、もつこ力を落しました。

翌日は、あきらめて畠へ行くことにしました。

ニコくかどやくお日様の下で、たつた二日來なかつた間に、すっかりきたなくなつてゐる畠。

おじいさんは、肥しをしたり、土を起したり、汗を出して働いて、夕方お家へ歸りました。

その晩、「へうたんラヂオ」は、又きこえ出しました。畠からきつて來たお芋のおかつで、お夕飯を食べてゐるせいべえさんのお口の中が、さてもくおいしくなつて……

おじいさんは、大安心しました。

夕飯を済ます直ぐに、一軒、一軒、「へうたんラヂオ」がなほりましたから聞きに來て下さい。こゝに云ひながら廻つて歩きました、しかし重兵衛さんには、やつぱり聞こえませんでした。